

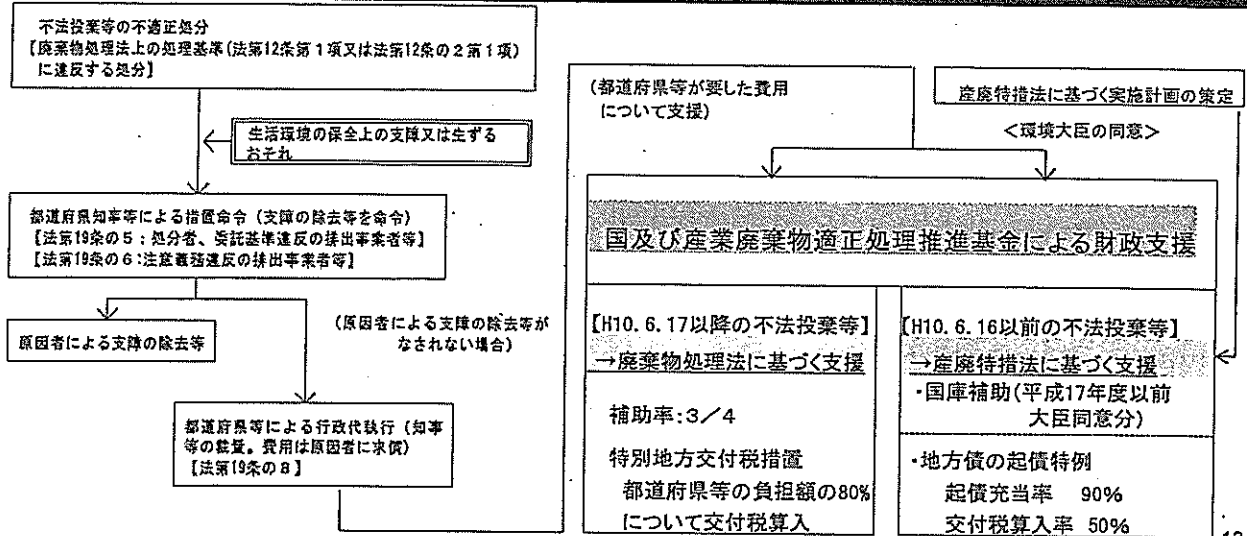
(4) 不法投棄等に係る取組

1. 未然防止・拡大防止対策

- 廃棄物処理法の厳格な適用
- ITの活用
- 地方環境事務所を拠点とした関係機関等との連携による監視・啓発活動
- 現地調査や関係法令等に精通した専門家の派遣による都道府県等での行為者等の責任追及の支援

等

2. 残存事案対策 (都道府県等がやむを得ず支障除去等の行政代執行を行う場合の財政支援の仕組み)



13

(5) 小型家電リサイクルに係る取組

小型電気電子機器リサイクル制度及び使用済製品中の有用金属の再生利用に関する小委員会の設置について

中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会の下に、小型電気電子機器リサイクル制度及び使用済製品中の有用金属の再生利用に関する小委員会を置き、以下の検討を行う。

【検討事項】

- ・リサイクルに係る独自の法制度が存在しない使用済小型電気電子機器中の有用金属のリサイクルの在り方
- ・家電4品目、パソコン及び自動車のリサイクルに関する取組み(リサイクルの実効性、有用金属のリサイクル等)の整合性

スケジュール(案)

平成23年2月9日 環境大臣から中央環境審議会への諮問、

小委員会の設置

平成23年3月31日 第1回小委員会の開催

以後、月1回程度開催

平成23年12月目途 小型電気電子機器のリサイクル制度のあり方の結論

14

(6) ライフスタイルの変革に係る取組

3R等に関する国民の高い意識を具体的な行動に結びつけるための取組

◇3R推進月間

◎3R推進全国大会(今年度:京都市)

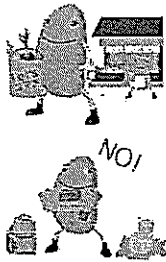
- ▶ 主催:3R推進全国大会実行委員会(環境省、近畿地方環境事務所、京都市、3R活動推進フォーラムほか)
- ▶ 平成23年10月28日~10月30日予定
- ▶ 国民・事業者・行政が一堂に会し、廃棄物問題等に関するそれぞれの知識や経験を交換。
- ▶ 参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供。

◎3R推進地方大会

- ▶ 各地方環境事務所において開催

◎環境にやさしい買い物キャンペーン

- ▶ 環境省、経済産業省、3R活動推進フォーラム、都道府県、流通事業者・小売り事業者
- ▶ マイバッグを持参する、簡易包装による購入、環境配慮製品の購入など、買い物における3R行動の実践を呼びかけ



- ◎その他、各地方公共団体、関係団体においても3R推進月間にイベントを開催

◇3REコポイントシステム

- ▶ 3REコポイントシステム促進のためのガイドラインを作成

◇マイボトル・マイカップキャンペーン

- ▶ オフィス・大学・学校・外出先で自分の水筒、タンブラー、ジョッキ、カップ、湯のみなどの飲料容器(マイボトル・マイカップ)を使う取組を促進することにより、ごみ、環境負荷を減らす取組

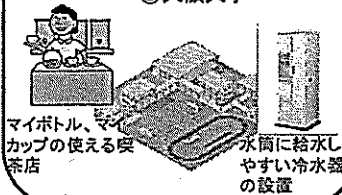
大学等における実証実験

- インフラ整備と水筒の配布によるモニター調査を通じて、取組の定着の程度と環境負荷削減効果を検証
- 実施大学: ①フェリス女学院大学
②横浜市立大学
③大阪大学



イベントでの啓発活動

- 環境省主催のエコライフフェア(6月5日~6日)においてブース出展。お茶の提供や展示を実施
- 10月の3R推進月間で自治体、地域での取組を呼びかけ、支援



◇WEBサイト「Re-style」

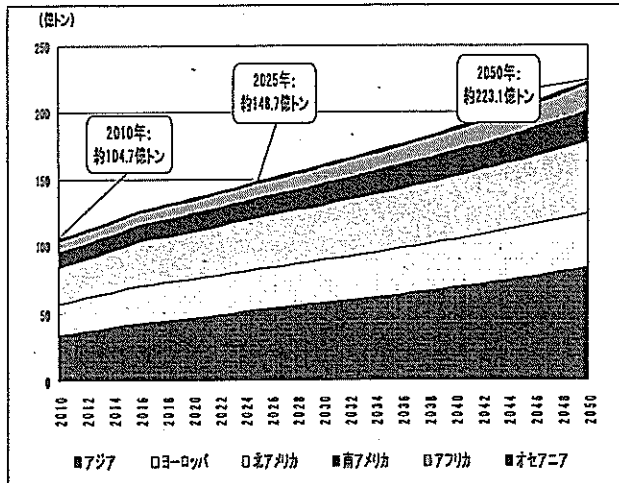
- ▶ 循環型社会におけるライフスタイルの実践を呼びかけていくため、民間団体とも協力してwebサイトを制作・運営(<http://www.re-style.jp/>)

(7) 国際的な取組

アジアの廃棄物問題は深刻

- ◆ アジアを中心とした経済成長と人口増加に伴って、世界的に廃棄物の発生量が増大し、質も多様化。世界全体の廃棄物発生量は、2050年には2000年の2倍以上となる見通し。
- ◆ 途上国では、廃棄物処理やリサイクルに伴い、環境汚染が発生している事例が報告されている。

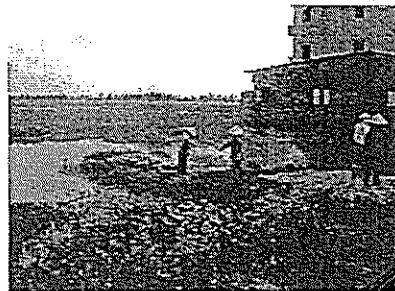
【世界の廃棄物排出量の将来予測 2000-2050】



出典:世界の廃棄物発生量の推定と将来予測に関する研究(田中謙)資料

途上国におけるリサイクルに伴う環境汚染事例

被覆ケーブルを焼いて、銅線を回収している『野焼き』の様子。



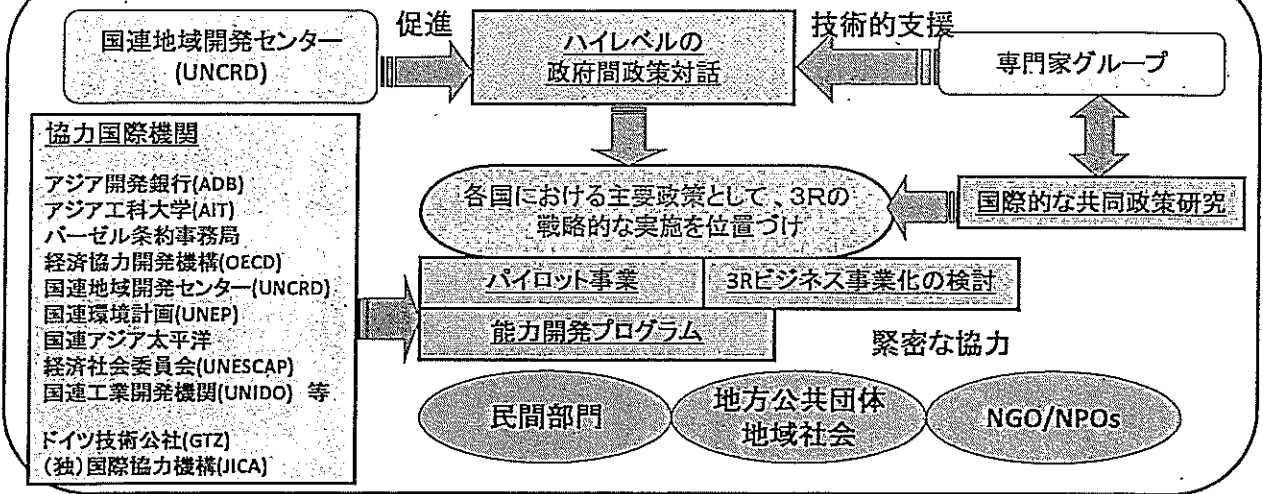
野積みされたごみの中を裸足で有価物を回収する人



出典:(財)日本産業廃棄物処理振興センター資料

アジア3R推進フォーラム

アジア3R推進フォーラムのイメージ



【経緯】

- 2008年10月 東アジア首脳会議(EAS)環境大臣会合開催 (ベトナム)
我が国より「アジア3R推進フォーラム」の設立を提唱
- 2009年11月 アジア3R推進フォーラム設立会合開催 (東京)
「アジア3R推進フォーラムの設立に関する東京3R宣言」合意
- 2010年10月 アジア3R推進フォーラム第2回会合開催 (マレーシア)
テーマ:「グリーン経済と循環型社会に向けた3R」
参加: アジア諸国・太平洋島嶼国22カ国(大臣含む)、国際機関、NPO民間企業の代表、専門家が参加
- 2011年 アジア3R推進フォーラム第3回会合開催予定 (シンガポール)

国系静脈産業メンジャーの育成・海外展開促進事業		22年度補正予算額 300百万円	23年度当初予算 [1,130百万円]	()は技術開発 を加えた額
効果 ◆廃棄物処理・リサイクルシステム、 技術がアジアに普及 ▷ アジアにおける環境 負荷低減 ◆静脈産業のアジア展開 ▷ 我が国経済の活性化	静脈 メジャー	先行グループ	海外展開 メジャー	次世代グループ
基礎 戦略14 百万円	我が国の廃棄物処理・リサイ クルシステムをパッケージとして 海外展開 190百万円	○大臣合意など政府レベルの基本 的枠組みのある国に対する先行グ ループの海外展開促進 ①具体的な海外事業展開を想定した フィジビリティ調査 ②現地での海外展開の枠組み構築の ための関係者合同ワークショップ ③現地静脈産業の円滑運営のため関 係者への研修	次世代静脈産業メンジャーの育成 347百万円	1. 未利用資源の有効利用技術を有する民間企業が海外 展開していけるよう、ビジネスモデルの確立を支援 ①レアメタルリサイクル → 300百万円を22年度補正予算計上 ②高付加価値・低炭素型の鉄リサイクル ③ペットボトルの再ボトル化 等 2. 高リサイクルに取り組む産廃業者、排出事業者を適正に 評価する手法の確立等を通じた静脈産業の育成支援 ①事業者の差別化に向けた適正評価手法の確立とその実施 ②産廃業者と排出事業者の協働に向けた情報の収集・分析
○関係者が 連携して、 アジアを視 野に入れた 日系静 脈産業の より効果的 な育成・展 開のため の戦略を 策定	情報基盤の整備 49百万円	①海外展開可能性国の情報収集・分析(国内に海外展開情報提供) ②我が国静脈産業技術の海外情報発信(アジア諸国の興味醸成)	静脈産業の海外展開に資する技術開発 ※530百万円を環境研究総合推進費にて計上	○途上国でも利用可能な、廃棄物処理・リサイ クルシステムの低コスト化・高度化等の技術 の開発

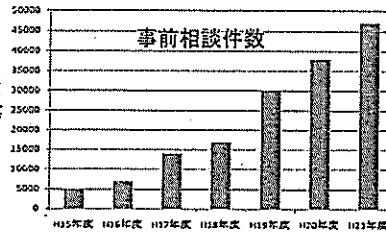
廃棄物の不適正な輸出入防止とアジアにおける適切な資源管理

国内監視体制の強化

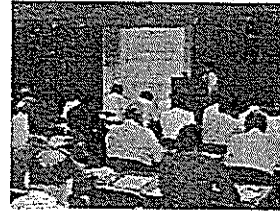
廃棄物の輸出入については、廃棄物処理法及びバーゼル法で規制されており、国による許可や確認等の手続が必要

関係省庁と連携した法制度の周知徹底および不法輸出の水際対策の強化

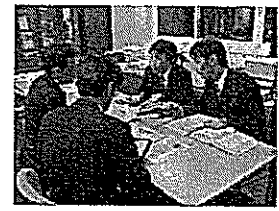
- ・事業者向け説明会の開催による制度の周知徹底
- ・地方環境事務所による個別案件に対する事前相談の実施
- ・税関と連携した地方環境事務所による立入検査等水際対策の強化



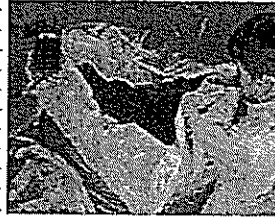
事業者向け説明会



輸出入の事前相談



貨物検査



中古利用目的と称したテレビ



アジア諸国との協力推進

＜有害廃棄物の不法輸出入防止に関するアジアネットワーク＞

＜コンピュータ機器廃棄物等適正管理事業(2005年～)＞

担当官同士のネットワークや二国間での管理体制の構築を通じたアジア各国のバーゼル条約施行能力の向上

- ・ワークショップの開催
- ・法令情報に関するウェブサイトの運営
- ・規制対象廃棄物の判断基準明確化
- ・循環資源の適正管理方策の検討



使用済みコンピュータ機器に係るパートナーシッププログラムへの拠出

- ・適正処理ガイドラインの策定
- ・インベントリの策定
- ・回収パイロットプロジェクト等の実施

(8) 第2次循環基本計画の進捗状況の第3回点検報告

第2次循環基本計画の進捗状況の第3回点検報告 (平成23年4月1日閣議報告)【現状の評価】

◇物質フロー指標

- ・資源生産性、循環利用率、最終処分量のすべてにおいて、目標に向けて進捗している。循環利用率、最終処分量は平成20年度時点で目標を達成している。
- ・土石系資源投入量を除いた資源生産性や化石性資源に関する資源生産性については改善が見られない。

	27年度 目標	12 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	12年度比
土石系資源投入量を除いた資源生産性(補助指標) : 万円/人	77	58.3	61.3	63.0	62.9	61.4	+5%
化石系資源に関する資源生産性(モニター指標) : 万円/人	-	102	105	108	108	106	+3%

◇取組指標

- ・1人1日当たりのごみ排出量など、目標を達成した指標もある。
- ・再使用可能な容器の購入、再生原料で作られた製品の購入などは10%台の実施率に留まるなどライフスタイルの変革に向けた具体的な3R行動については不十分な取組もある。

◇指標の改善の要因

- ・3Rの取組の浸透や国民の意識の向上
- ・一方、平成20年の世界金融危機の影響を受けている可能性

◇留意点

- ・循環資源の利用先が限定的であり、リサイクル等も限界に達しつつあるとされるものもあるほか、高品位な循環資源が海外に流出している場合もある。
- ・数値目標の安定的な達成、維持を含め、引き続き取組を進める必要